

熊本県立技術短期大学視察

令和6年12月9日
半導体製造に不可欠な人材育成を推進する県立技術短期大学を視察しました。



古閑大和君優勝報告会

令和6年10月25日
古閑大和さん（熊本市東区の中学3年生）
「元プロゴルファー古閑美保さんの甥」が
ボクシングジュニアリーグで全国制覇を果たされ、
木村知事に喜びを報告。私も同席しました。



知事要望活動同行

令和6年7月29日
熊本県の諸施策が円滑に進むよう政府及び与党への要望提出に同行しました。



熊本県戦没者追悼式

令和6年8月15日
「令和6年戦没者追悼式」に参列しました。



情熱
行動

熊本県議会議員 本田雄三
HP: <https://hondayuzo.com>

連絡先: 県議会公明党 096-333-2645
MAIL: yuuzou303666@gmail.com

情熱と行動で
活力ある熊本を!!



<https://hondayuzo.com>



本田ゆうぞう
HP

令和6年12月20日時点の情報に基づき作成しています。

熊本県議会議員

情熱と行動で 活力ある熊本を!!

KUMAMOTO



情熱
行動

令和6年

本田ゆうぞう 議会NEWS



vol.15

特集 令和6年11月定例会（12月4日）本会議 一般質問

一般質問項目

一般質問・代表質問を
併せて通算8回目の
質問を行いました!!

- 1 半導体製造における地下水採取量の削減について
- 2 不登校児童生徒の支援について
- 3 再エネ普及と並行した電力の安定供給の確保について
- 4 ツール・ド・九州を活用した本県の魅力向上について
- 5 新型コロナワクチン及び带状疱疹ワクチンの公費助成について

⇒ 詳しい内容は中面をご覧ください。

視察 高速交通ネットワーク整備推進特別委員会管外視察

令和6年11月19～21日に他都市の交通ネットワークの取組みや課題等を共有するため、香川県の高松琴平電気鉄道・徳島県の徳島南環状道路・兵庫県の大阪湾岸道路西伸部を視察させていただきました。



ごあいさつ

寒さが身にこたえる季節となりました、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

さて、県議会も令和6年度11月定例会が12月17日に閉会いたしました。今定例会では県政運営の基本的な方針をまとめた『くまもと新時代共創基本方針』や約113億円の一般会計補正予算案などが可決されました。物価高騰や働き方改革など、課題が山積しておりますが、今後とも皆様の声を県政に反映すべく全力で取り組んでまいりますので、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



熊本県議会議員
本田ゆうぞう

情熱行動

情熱と行動で未来をひらく活力ある熊本をつくる

令和6年11月定例会の一般質問について一部ご紹介します。



QRコードを読み取ると定例会を視聴できます。



質問者
本田 雄三

1 半導体製造における地下水採取量の削減について

— 背景 —

TSMCの第1工場では、年内の量産開始を前に、高度な水処理システムが既に稼働。運営子会社のJASMIは半導体製造に使った水を再び使えるようにしたり、工場内の空調機器の冷却に使用されるなど、採取した地下水の75%のリサイクルを目指す公表。画期的で素晴らしい水循環システムである。地下水の保全については、今後、進出される企業や新たに造成される工業団地においては、水循環システムのような地下水採取量削減の取組を求めていく必要があるのではないかと。



Q 今後、半導体製造など地下水を大量に使用される企業に対し、地下水採取量削減のため、県として具体的にどのような対応を求めていくのか？

A ●地下水保全に向けた3つの原則として、地下水採取量の削減、他の水源利用の推進、地下水かん養の更なる推進を掲げ、様々な取組を推進。
●企業等が採取する地下水の量を削減するため、地下水保全条例に基づき地下水使用合理化指針を示し、企業等に対して、節水型機器や雨水利用施設の使用などのほか、再生水の使用にも努めるよう求めている。
●台湾のTSMCでは、高度な水再生処理システムが稼働しており、今後、地下水採取量削減の有力な手段として期待されることから、先月、調査のため関係職員を台湾に派遣した。
●システムを導入することの可能性について、企業等とも協議しながら庁内プロジェクトチームで検討して参る。
●企業による地下水利用の影響を最小化するため、企業に対し、地下水を守る取組をしっかりと求めて参る。



末村知事

2 不登校児童生徒の支援について

— 背景 —

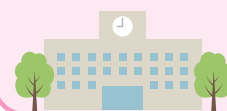
政府に子ども家庭庁が設置され、子供まんなかの政策が重視される中、東京都や静岡県などが、一般財源でフリースクールに通う児童生徒の保護者への支援等が開始されている。

Q フリースクールに通っている児童生徒を含めた全ての不登校児童生徒やその保護者への支援は？

A ●今年10月から、「不登校児童生徒への支援に関する協力者会議」を新たに立ち上げ、今後の不登校児童生徒への支援策について議論を行っている。
●第1回の会議では、不登校児童生徒の保護者への必要な情報が十分に届いていないのではないかという御意見があったことから、新たにホームページに周知に関する情報を掲載した。併せて、フリースクール等民間施設をまとめた資料を作成し、小中学校等への配付を行った。今後も引き続き、随時更新するなど、積極的に情報を発信していく予定である。
●今月には全ての不登校児童生徒及びその保護者を対象にアンケートを実施し、どのような支援を望まれているかなど、直接声をお聴きし、施策に反映させていく予定である。

(令和5年度の文部科学省調査)
熊本県小中学校の不登校児童生徒数

5,848名



不登校児童生徒は、
毎年、増加傾向にある。

3 再エネ普及と並行した電力の安定供給の確保について

— 背景 —

再エネの普及と同時に送電網の強化が喫緊の課題であり、特に九州と本州を繋ぐ連系線の増強は必要不可欠。TSMC等の半導体工場や空港周辺地域の電力をRE100で賄う計画は、災害時や緊急時のバックアップ体制が網羅されているのか。

RE100の概念は

脱炭素への取組みを推進するために、企業が自らの事業の使用電力を100%再エネで賄うことを目指す国際的なイニシアティブがあり、世界や日本の企業が参加しています。

Q ①県として地域間の電力システムの現状をどのようにとらえているのか？

A ●政府要望において、今年度から、九州と本州を結ぶ地域間の電力系統強化を要望し、九州地方知事会の特別決議にも地域間電力系統の強化が盛り込まれている。



②空港周辺地域でRE100を進める場合、再エネ電力供給における信頼度とは？

●地域エネルギー会社を設立し、地域内外の再エネを集約し、地域の企業等に対し再エネ電気を供給する予定。
●電力の供給は、基本的に既設の九州電力の送電網を利用することになったので、災害時の停電リスクなど、現行の安定供給を維持できると考えている。

4 ツール・ド・九州を活用した本県の魅力向上について

— 背景 —

国際自転車競技連合公認のサイクルロードレース(ツール・ド・九州)が昨年に続き、本年も10月に開催された。「熊本会場は南小国を起点に産山から阿蘇市、南阿蘇が終点」本県には世界一の阿蘇のカルデラを含め、世界遺産の崎津集落などを巡る天草のサンセットルート、日本遺産に認定された人吉・球磨の歴史・文化財を堪能できる球磨川サイクリングコースなど、県内各地にコースとしてそれぞれで違ったおもしろさがあります。



Q 2025年のコースは決定されていると思われますが、2026年度以降、県内の魅力度を向上させるためにも新たなコースも構築されてはいかがか？

A ●世界中からサイクリストが集まる瀬戸内しまなみ海道のように、阿蘇地域もサイクリストの聖地として浸透させていきたい。そのため、引き続き、阿蘇地域で「ツール・ド・九州」の開催を進めていながら、その効果を県内全域へ波及させるため、天草や人吉・球磨など、阿蘇地域以外のサイクルツーリズムの推進にもしっかりと取り組む。

5 新型コロナワクチン及び帯状疱疹ワクチンの公費助成について

— 背景 —

新型コロナワクチンの接種は、5類移行後65歳以下の方は任意接種であるが、1年以上接種しないと効果はなくなる。また、帯状疱疹ワクチンの接種における公費助成は、各自治体で差異が生じている。

(2023年5月～2024年4月)
厚生労働省が公表した人口動態統計
新型コロナウイルス 死者数

計3万2576人

季節性インフルエンザの約15倍

Q ①65歳以上その他の年代も効果がなくなるのであれば、一部でも公費助成が必要でないか？

A ●重症化リスクが相対的に低い若い世代は、公費による定期接種の対象ではなくなった。県として単独の公費助成は予定していないが、感染を予防するためには、若い世代も含めた全ての世代の方に対し、手洗い、うがい等の基本的な感染対策を発信し続けていくことが重要。

②帯状疱疹ワクチンの接種機会の必要性を踏まえた、国の公費助成の検討状況等は？

●国に対し、帯状疱疹ワクチンについて定期接種化の検討を行うよう要望してきた。ワクチンの有効性、安全性等の評価等を踏まえ、技術的な観点からは、定期接種に用いてよいとの方向性が示された。正式決定に向けた国における議論の動向を注視して参る。



▶ 帯状疱疹ワクチン 2025年4月から
65歳対象に「定期接種」へ